

フランス政府の救護物資を輸送致しました



東北地方太平洋沖地震で深刻な被害を受けた東京電力・福島第一原子力発電所の事故を受け、大気中の放射線量を測定する特殊車両数台や防護服など、原発事故対策に有益な支援物資・機材・人員や、救護物資約150トン積んだ大型輸送機「アントノフAn-225」が3月25日、フランスから成田空港に到着しました。



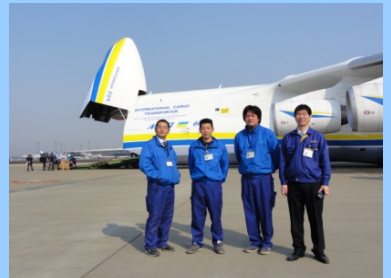
支援物資 内容 (3/18フランス電力会社の発表より)

●技術支援(アレヴァ(仏原子力大手)、フランス電力公社(EDF)、フランス原子力庁(CEA)で構成されるINTRA(原子力事故ロボット工学的介入経済利益団体)が提供)

- ・放射線防護および放射線量計測装備30トン
- ・大気モニタリング用トレーラー1台および環境放射線測定用トラック3台
- ・排水ポンプ10台、可動空気圧縮機5台、自家発電機5台

●人道支援(フランス外務・ヨーロッパ問題省の危機対策センターが提供)

- ・毛布 7000枚
- ・ミネラルウォーター 10万本
- ・酸素マスク 100万台
- ・缶詰の果物 5トン
- ・乾燥スープ 5万食
- ・アルコール消毒液 10万ボトル
- ・医薬品、医療関連品 5トン



(総計150トン、1100立方メートル)



アントノフ An-225「ムリーヤ」

旧ソビエト連邦のスペースシャトル「ブラン」を輸送するために設計された超重量級の輸送機。機体と貨物を合わせた最大離陸重量は実に600トンと、世界一重い航空機として有名な6発輸送機である。

ウクライナ語で「夢」を意味するムリーヤ((Мрія)の愛称で親しまれている。

公式スペック上の最大積載量は250トンとけた外れの性能を有し、サイズも全幅88.74メートル・全長84.0メートル・全高18.1メートルと、全長だけを見てもボーイング747-8を10メートル近く凌駕する大きさを誇る。同機は2機製造されたものの1機しか完成せず、現時点でこの1機のみが商用として欧州を中心に活躍している。

2010年2月のハイチ大地震復興支援の際に日本の防衛省がチャーターして以来、日本には今回が2度目の飛来。